第5回 日本伝道会議の論点 ⑩

青年 彼ら自身の中にある危機にこそ福音が必要

第5回日本伝道会議の理念の中にある「今回の会議は次世代を担う人々・青年の力を集め」には、教会の高齢化や教職不足などの教会の現実的な危機が背景にある。さらに、何とか若い教職や青年たちがこの会議に参加し、次世代に繋がる働きや協力が生まれて欲しいという思いが表れている。

青年が少ないと嘆く前に関心を

青年プロジェクト委員会では、教会に青年がいなければ将来的に教会の存続が危ぶまれるという危機感を受け留めている。しかし、彼らが次世代を担う教会の働き手であることだけに焦点が当てられていくと、青年自体を見失う可能性がある。むしろ、青年自身の姿を知り、彼らの中にある危機にこそ福音が必要であるということを覚え、宣教協力をしていくことが重要なことと考えている。

そこで、青年プロジェクトの1日目は、「教会内にいる青年へのアプローチ」というテーマで行う。少子化の影響も受け、日本の教会全体では、青年の数は減少傾向にあるかもしれない。ただ、現在少数でも青年がいるならば、青年が少ないと嘆く前に今いる青年たちに関心をもって関わることが急務だ。青年たちと向き合うためには、彼らとの良いコミュニケーションをもてるかが、キーポイントになってくる。

今回、多くの学生や青年に接し、若い人たちから信頼を得ている大嶋重徳KGK（キリスト者学生会）主事に「若者に届くことば」ということで発題講演をしていただく。その後、この発題を受け青年たちによるパネルディスカッションを行い、青年たちの生の声を聞く。

プロジェクトの2日目は、「教会の外にいる青年へのアプローチ」。具体的に11のミニストリーのグループに分かれてディスカッションを行う（ゴスペル・バンド・キャンプ・スポーツ・青年ミニストリー・青年伝道ネットワーク作り・インターネット・学生伝道・高校生伝道・ティーンエージャーの教会での育成・アラカルト）。それぞれのグループの座長は、その分野に精通している方々だ。これから、ミニストリーを始めようという方にも、現在ミニストリーを行っている方にも、両方のニーズに合うように会が進められていくことを目指している。

確信と献身へ公開で青年大会

3日目の午後には、青年大会「北で2009」が大ホールで行われる。この大会には、会議に登録されていない方々も参加することができる。テーマは「be ambitious in Christ」で、救いの確信が深められさらに献身へと導かれることを願っている。北海道の若手教職と信徒の方々が、協力して大会の準備を進めてくださっている。プログラムにおいても、北海道のダンスチームや北でバンドによるリードと道内の献身者の証し等がある。賛美ゲストは、歌う信仰告白として定評のある内藤容子氏。メッセンジャーは、ストレートにみことばを語る安藤理恵子KGK主事。

青年プロジェクトに若い教職や青年が集うと共に、さらに青年宣教に重荷と関心をもつ多くの方々が参加してくださることを期待している。青年大会では、全国の青年と北海道の青年が共に集い、主にあって一つである恵みを味わうことができれば感謝である。

（三橋与志哉＝「青年」プロジェクトリーダー、越谷福音自由教会牧師）

WCC次期総幹事候補「イスラム教との関係重視」

【ジュネーブ＝ENI・CJC】世界教会協議会（WCC）次期総幹事候補の1人、ノルウェー・ルーテル教会のオラフ・フィクセ＝トゥヴェイト牧師（48）が、WCCはイスラム教との関係とイスラム教が優勢な地域のキリスト者を支援することにもっと注意を払うべきだと思う、と語った。「イスラム教が支配的な国で、イスラム教との関係を維持しなければならない教会を孤立させてはいけない」と同氏が8月13日付の独週刊紙ライニッシャー・メルクールとのインタビューで述べたもの。

「欧州でも、イスラム教徒の隣人との対話の重要性は増している」と言うトゥヴェイト氏は、ノルウェー教会のエキュメニカル国際関係協議会の総幹事を2002年から務めている。「軽率なコメント」で緊張を増すことのないようにするのが重要だと言う。同氏はWCC次期総幹事候補として調査委員会が指名した2人の中の1人。もう1人は韓国のパク・ソンウォン牧師。

WCC・パレスチナ・イスラエル・エキュメニカル・フォーラムの中核グループの共同議長を務めるトゥヴェイト氏は、中東のような地域のキリスト者にとって、イスラム教徒との交渉では世界教会の支援が重要だ、と指摘した。

「ハリー・ポッター」と謎のプリンス」をバチカン紙が称賛

【CJC＝東京】イギリスの児童文学作家J・K・ローリング原作の映画「ハリー・ポッターと謎のプリンス」を、バチカン（ローマ教皇庁）機関紙ロッセルバトレ・ロマノが文化欄の批評で、善が悪に打ち勝つべきであることと、「それが時には犠牲が必要」なことを明確にした、と称賛した。ただ原作者のJ・K・ローリングは超越的な存在について全く触れていない、と批判している。

2003年に、教理省長官ヨーゼフ・ラッツィンガー枢機卿（現教皇ベネディクト16世）は、ハリー・ポッター」シリーズには、子どもたちのキリスト教信仰を損ないかねない「巧みな誘惑」が含まれていると警告した。

伊地震被災地で珍しい聖画発見

【CJC＝東京】4月のイタリア中部地震で壊滅的な被害を受けたオンナ村で8月11日、聖ピエトロ＝アポストロ教会のがれき除去作業中に15世紀のフレスコ画が発見された。ラクイラの文化財保護当局が発表した。キリストの上に聖母マリアを配置し、周りを天使たちが舞って2人の血を集めているという構図・図柄ともに珍しいという。

創造論博物館が無神論者を招待

ダイノザウルスの展示場（創造博物館サイト）

【CJC＝東京】米ケンタッキー州ピーターズバーグにある創造博物館は、世界が創世記の記述通りに創造されたという創造説を普及する目的で2007年5月に開設されたが、いわゆる無神論者を見学に招待することを企画した。「世俗学生連合」（SSA、本部オハイオ州コロンバス）がこれに応じ、科学者、学生、世俗論者など304人が8月7日博物館を訪問した。

宣教通信ANSによると、同日に発表された声明で、創造博物館の共同設立者マーク・ローイ氏は「誰でも歓迎する。世界史（起源を含め）の、他のほとんどすべての自然史博物館や公立学校の科学授業で示されるものと違う見方を提供しており、キリスト教信仰に懐疑的な人たちの訪問を特に促進する」と指摘「彼らが創造博物館を見学し、反対側の証拠を調べる批評の能力で、独断的な見解の再評価につながるだろうと確信する」と述べた。

訪問はほぼ順調に進んだが、一部の撮影をやめるようにとの博物館長の要求を拒否したビデオカメラマンが退去を命じられた。また展示物や天体物理学者ジェイソン・ライル氏の講演にあざけりの声も上がったという。

ローイ氏は「その人たちは、たぶん教会に出席することを考えさえしないだろう。彼らはここで福音のメッセージを受け取った！」と述べている。2千700万ドル（約26億円）かけて設立された創造博物館は開館以来入館者が82万人を超えたという。

キリスト教葬儀
豊富な実績と真心をもって――
中杉商事（株）
TEL 03(3365)3162 東京都中野区中野1-32-5 〒164-0001
業務実績－400教会 《24時間受付》 業務エリア－都内全域及び近県

教会が教会であるために

精神障害と教会 58

「発想の転換」

弱さ、苦悩が秘める可能性に

精神障害をもっておられる方々の困難さを受け止めることに熱心に取り組んでおられる教会の牧師さんから質問をいただきました。その教会では、牧師ばかりではなく、教会員有志が、そのことに使命を感じ、熱心にカウンセリングなどを学んでいるようです。その学習教材の一つとして『べてるの家から吹く風』（いのちのことば社）や『べてるの家の〝非援助論〟』（医学書院）などを購読されているようです。

最初の質問内容は「向谷地さんはそのような〝発想の転換〟はどこで、どのような苦悩の中で体得されたのですか」ということでした。ここで言う〝発想の転換〟というのは、こういうことです。「今まで私は、関係こそ信仰の本質と信じて、人間関係を大切にしてきましたが、べてるの家のように、ダイナミックに悩むことを前面に出して身体の〝誤作動〟を克服していくのは初めて」だというのです。つまり、伝統的な牧会カウンセリングでは中心に傾聴―聴くこと―を置き、カウンセリングを通して相手の心の構造を分析しながら、受容することを通して、当事者の心の負担が軽減され、悩みが解消されることを大切にしてきたのですが、べてるの家では、むしろ「悩みが増えること」を重要視したり、聴くこと以上に聴き過ぎないことや、行いや振る舞いが上達することを重んじたりと、正反対の対応をすることも少なくありません。〝発想の転換〟とは、そのことを指しているのだと思います。

これは、30年以上に及ぶ、当事者支援の経験と、認知行動療法（人間の物事の受け止め方と行動の関連性を研究する心理学の分野）などのアイデアや名著『夜と霧』の作者であるV・フランクルの考え方などの影響とともに、何といっても聖書が指し示す人間観が基礎となっていると思います。それを具体的に説明すると、統合失調症をかかえる人たちの生きづらさは、例えると「車の運転」の上達にも似ているということです。それは、どんなに「車を上手に乗れるようになりたい」という思いを傾聴しても、実際に練習しないと乗れるようにならないということです。また、フランクルは、人間が誰しもかかえる「生きる苦悩」を苦悩することこそ、最も人間らしい業績であると語っています。それは、パスカルが「人間は、自分が惨めであることを知っている点において偉大なのである」と述べていることと共通しています。聖書は、一貫して「弱さ」のもつ価値や可能性について言及しているのです。

向谷地 生良（むかいやち いくよし）
北海道医療大学看護福祉学部教授、浦河日赤病院ソーシャルワーカー、「べてるの家」理事と三足のワラジを履いて活躍中

◎みなさまのお悩み・ご質問・ご意見を募集しております。「精神障害と教会」にかかわる具体的なお悩みや、ご質問を送ってください。
宛先は〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1OCCビル5階 クリスチャン新聞編集部まで。HPでも募集中です。http://jpnews.org/seishin/（掲載の場合は薄謝進呈）